

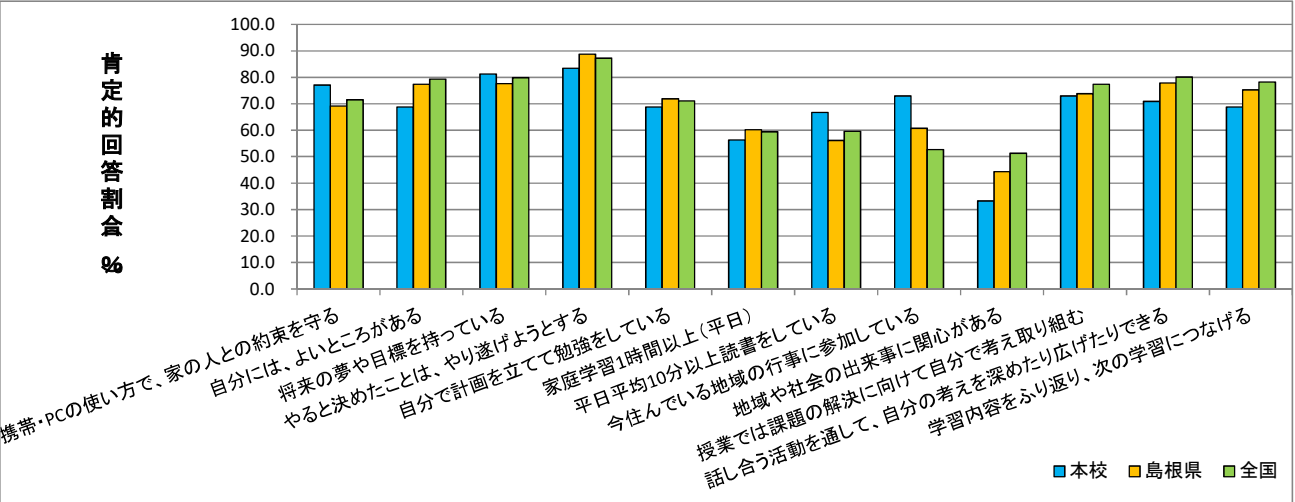
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○正答率は全国正答率を上回った。 ○ほとんどの設問において全国平均を上回り、特に記述式問題の正答率が高い。 ●既習漢字の中に定着が不十分のものがある。	・条件を満たして書く活動を意図的に設定し、その指導の工夫と適切な評価について継続して取り組む。 ・言葉や漢字の習得や活用について、授業で積極的に取り上げたり、家庭学習と効果的につなげたりして定着を図る。
算数	○正答率は全国正答率を上回った。 ○「数と計算」領域の正答率が高い。 ●「図形」領域、特に図形の意味や性質、構成の仕方についての理解がやや弱い。	・個の考えを表現する場面、対話で深めていく場面、まとめや振り返りの場面等、各学習場面の充実を図る取組を発展させていく。 ・図形等、視覚的に理解が進むようにICTを含めた教具の工夫をする。
理科	○観察などで得た結果を適切に分析する力が伸びている。 ●正答率は全国正答率を下回った。 ●実験器具の名称や使い方について定着が十分でないものがある。	・問題解決的な授業構成を意識し、自然事象への関心を高め、意欲的な学習姿勢を育てていく。 ・実験や観察などの体験的な学習を重視し、その中で基礎的な知識や技能が身に付けられるよう工夫する。

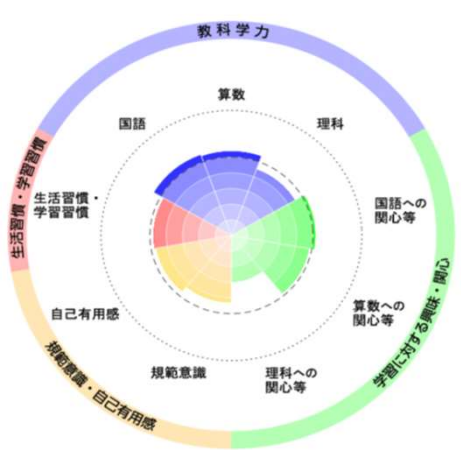
(2)児童質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○地域の行事に積極的に参加する児童の割合が高い。 ○読書習慣については継続して良好な状況である。 ●地域や社会の出来事に対する関心が薄い傾向にある。 ●学習を振り返り、次につなげていく習慣が十分に確立されていない。	・生活や社会とのつながりが実感できる授業づくりを心がける。 ・学習の「めあて」や「ふりかえり」を確認する場面設定を意識して授業構成する。

(3)児童質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・学校の教育活動全体を通して児童の自己有用感を高める。
・ICTの授業活用を日常化し、効率的で効果的な学習スタイルを構築していく。
・メディアコントロールについてPTAと連携した取組を進める。

【受検者数】
48 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。